

射水市総合計画審議会 第4回安全安心部会 会議録(要旨)

日時 令和4年7月27日(水) 午前10時～11時20分

場所 新湊消防署3階講堂

出席者

(委員)

加治幸大、門田晋、鈴木真由美、辻ゆかり、釣谷隆行

欠席委員

上田秀永、大坪清治、川原辰弥、木田和典、高市洋介

(当局)

現地参加

北財務管理部長、長谷川市民生活部長、小見福祉保健部長、小川財務管理部次長、
松下市民生活部次長、京角市民生活部副参事、中村衛生施設整備推進班長、菅原政策推進課長

リモート参加

島多市民病院長、中野市民病院事務局長、糸岡市民病院事務局長、下村市民病院医事課長、
竹内消防長、土居消防本部次長、大隅消防本部総務課長、小路消防本部防災課長、
明野生活安全課長、山口地域福祉課長、竹内社会福祉課長、菓子介護保険課長、明保険年金課長、
高岡保健センター所長、網防災危機管理班長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 基本構想及び基本計画素案について

(2) 将来像及び関係人口の名称の検討状況について

政策推進課長	資料1、2に基づき説明
部会長	資料1 基本構想・基本計画素案について意見をいただきたい。
副部会長	かなり見やすくなってきた。前期基本計画の見方について確認したい。成果指標にパーセントや数字などいろいろ出ている。目標値の設定にいたった経緯や根拠について聞かせていただきたい。
政策推進課長	成果指標は、各章のタイトルとなっている「基本目標」の達成に向けて、主要施策の成果を測るため、それぞれの担当課において検討し、設定している。
副部会長	67ページの「5-1-1 地域共生社会の実現に向けた体制づくり」の成果指標に関して、「地域支え合いネットワーク事業実施地域数」、「地域共生社会構築事業実施地域数」及び「緊急時の受入可能事業所数」、「特定相談支援の実施事業所数」の目標値の設定根拠を教えてほしい。
福祉保健部長	「地域支え合いネットワーク事業実施地域数」については、地域振興会や地区社会福祉協議会などが主体となって事業に取り組んでおり、現在26の地域振興会で実施している。全市的な取り組みとしたいため目標値を27地域とした。 「地域共生社会構築事業実施地域数」については、地域支え合いネットワークを

さらに進め、地域の中で一時的な相談や高齢者・障がい者・子どもなど多様な居場所をつくっており、現在1地域で実施している。これを他の地域でも展開できるよう目標を設定した。

「緊急時の受入可能事業所数」については、障がい者が地域で生活していくために障がい者施設だけでなく、障がい者の事業所などにおいても緊急時に受け入れられるよう2地域に設けたい。

「特定相談支援の実施事業所数」については、障がいサービスの利用者には、介護保険のケアマネジャーと同様に相談支援を行っている。その事業所数を増やし体制強化を図るものである。

副部長

地域共生社会の構築は国としても課題としている中、今後5年の中で1地域だけの増加なのか。もう少し積極的に大きな目標を立ててもよいのではないかと。

福祉保健部長

地域で負担感のない形で自然に共生社会をつくっていくことを考えた時に、「地域共生社会構築事業」に手を挙げなくても「地域支え合いネットワーク事業」の中で、こども食堂など様々な充実を図っているところもある。そういったことも加味しての数値設定ではあるが、地域数については再度検討する。

委員 A

「1-1-2 出合いの場の創出」については、前提として、婚活する前に安定した収入が必要となることや、企業の働きやすさ改善の努力も必要になるのではないかと。収入が低いことで次の段階に行けないという方々がいる中で、イベント開催ではなく収入面なども掘り下げて施策を展開してほしい。

イベントの開催にしても、県レベル、北陸3県レベルなど色々なイベントと関連させながら進めていくのも一つの方法だと思ふ。

委員 B

この総合計画の考え方として、各項目の目標を達成すると、定住人口 86,000人、関係人口 132万人が実現するという流れかと思ふ。そうした時にそれぞれの指標の中で人口当たりと示されているものは 86,000人を基準に考えていると思ふといいのか。

73 ページ「6-1-1 観光の振興」の観光客入込数の目標が、200万人となっているが、ムズムズ人口 132万人と整合性があるのか。

また、それぞれの基準値が令和4年3月31日時点であり、コロナ禍における数値となるが、基準値として正しい数値と言えるのか。

事務局

各指標については、絶対値ではなく、なるべく「人口当たり」など、割合で示したいと考えており、基本目標の実現を測ることができる指標となるよう各課で工夫している。指標そのものの設定が適切でないと思われるところがあればご指摘いただきたい。

観光客の目標人数は、あくまで観光として実際に足を運んできた人の絶対数であり、関係人口は実際に射水市に来なくても継続的に何らかの形で関わっている人の数である。観光客入込数と関係人口が矛盾するものではない。

基準値については、コロナの影響を受けているものもあるが、目標値はコロナ前の数値やコロナの影響を踏まえて設定している。

委員 B

各項目に対し具体的に適切か見るためには、バックデータや過去のデータがあるので、データを出していただく必要がある。元々市民目線を意識している計画なので、市民の方が見て違和感がないようにしていただきたい。

部長

例えば 51 ページ「3-1-5 公共交通網の整備」のコミュニティバス等乗車人数は、市民だけでなく観光や通院で利用する人を含めた数値であってほしい。いくつかの成果指標や主要施策を踏まえた指標であるとよいと思ふ。

また、55 ページ「3-3-2 消防・救急体制の強化」には救急体制などが入っており、69 ページ「5-2-2 地域医療体制の充実（2）救急医療体制、災害対応体制の充実」と連動している施策になる。連動している施策は一部まとめて全体として指標設定できるとよい。

市民生活部長	コミュニティバスの目標値は、通院や観光客等も含めている。基準値はコロナ禍で落ち込んだ人数であり、コロナ前は約 40 万人となっていた。コロナ前の数値に回復させたいと考えている。
委員 C	それぞれの関係課で、ほぼ達成できるだろうという数値を目標値に掲げているように思われる。この先どうなるか分からない時代において、成果に縛られるだけでなく施策の方向性が重要だと考える。
委員 A	<p>コミュニティバスの乗車人数が指標に掲げられているが、今後、コミュニティバスや公共交通はどのような形になっていくかをイメージして目標値を設定する必要がある。</p> <p>3社あるタクシー会社の協働による仕組みをつくり上げ、市民の足の確保を図ることを考えているが、これは民間の力だけではできず、官の力も借りる必要があると思っており、こういったことも踏まえると、コミュニティバスの目標値の設定は難しいと思う。</p> <p>また、新湊地区のモビリティである電気三輪自動車「べいぐるん」が地域住民に認知されてきて、平日はフル稼働している。こういった新しい地域交通の形が出てくると、コミュニティバスの役割や目標値も考え直す必要がある。</p>
市民生活部長	現在のコミュニティバスについては、公共交通網形成計画に基づいている。観光客への対応や地域の高齢者への対応など含め、公共交通網形成計画も適宜見直していく。
副部長	55 ページ「3-3-2 消防・救急体制の強化」の消防団員数の目標値は、少子高齢化で担い手不足の中、どのような根拠で設定しているのか。
消防長	目標値の 757 人は条例に定める定数であり、これを目標値としている。
副部長	人口が減少する中で、この目標値は適切なのか。あくまで目標ということであればそれでもよいが、現実的な考え方も必要ではないか。市民の安全を確保するために最低限どのくらい確保すればよいかを検討する必要がある。
部長	例えば 69 ページの 5-2-1 から 5-2-4 を見ると、オンラインや在宅の指標が入っていない。施策があり指標があると具体的な目標値が見えて市民にも分かりやすいと思うが、はっきり見えていないものは分かりづらい。全部は難しいと思うが、複数の視点のものなどは指標があるといい。オンラインや在宅は DX とも関連してくる。指標として反映されていないものもできる限り設定を検討してもらえればと思う。
委員 A	市の公式 LINE の登録者数を増やせば、指標や目標値も変わると思う。
政策推進課長	LINE 登録者数は開始当初は増えたが、今は頭打ちとなっているのが現状である。
部長	資料 2 射水市の将来像案及び関係人口の名称案について、意見をいただきたい。
	(意見なし)
	意見が無いようなので、この件については、正副会長と正副部長で調整したい。
部長	再度、資料 1 基本構想・基本計画素案について意見があればいただきたい。
部長	<p>53 ページ「3-2-3 生活空間の整備・充実」の公共・公益施設のバリアフリー化には、公園トイレのバリアフリー化が入るのではないか。どこかの成果指標に入るといい。</p> <p>また、63 ページ「4-1-5 ペットとの共生」の指標には、「苦情件数の減少」が設定されているが、ペットと共生できる施設整備数など、もっとポジティブな指標があるとよい。</p>

また、63 ページ「4-1-3 人権尊重・権利擁護の推進」の虐待防止対策の強化については、子どもを守るための重要な施策であり、指標設定は難しいと思うが、どこかにあるとよい。

委員 B 41 ページ「2-1-2 農林水産業の振興」の成果指標について、1 人あたりの漁業所得が基準値で 3,018 千円、目標値で 3,320 千円となっているが、これは漁業者の年収になるのか。

事務局 漁業収入から漁業コストを差し引いたものであり、射水市内の漁業従事者の所得となる。

委員 B 漁業者はこれで満足しているのか。漁業の町として、射水市のブランド政策にも関わってくる。皆さんが希望する魅力的な金額としたほうがよいのではないか。

部会長 本日いただいた意見は、次回の協議資料に反映する。資料への反映については事務局と部会長、副部会長に一任してほしい。

(異議なし)

部会長 本日発言できなかったことや後日気付いたことなど意見がある場合は、机上の様式等を利用して事務局に提出していただきたい。

4 その他 事務局

次回の全体会について、8月29日(月)午後7時からクロスベイ新湊での開催を予定している。

5 閉会

以上

射水市総合計画審議会 第5回活力元気部会 会議録（要旨）

日時 令和4年7月28日（木） 午後2時～4時30分

場所 新湊消防署3階講堂

出席者

（委員）

岩口久梨果、大西宏治（リモート参加）、尾山春枝、笹川征一、塚本清、津田奈由子、牧田和樹、
亘建邦

欠席委員

牛塚松男、古池清一、森由佳子

（当局）

現地参加

宮本産業経済部長、吉田都市整備部長、夏野上下水道部長、福井産業経済部次長、山口都市整備部
次長、南上下水道部次長、盛光商工企業立地課長、久々江観光・定住課長、菅原政策推進課長

リモート参加

遠藤農林水産課長、橋本都市計画課長、山下道路課長、酒井建築住宅課長、堀上下水道業務課長、
前田上水道工務課長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

（1）基本構想及び基本計画素案について

（2）将来像及び関係人口の名称の検討状況について

政策推進課 長	資料1、2に基づき説明
部会長	掲げられている成果指標について、第1部 第1章から順番にお聞きするので意見があれば発言してほしい。
部会長	第1部「1-1-1 妊娠期から切れ目のない支援の充実」について 「母子総合相談室の認知度」について、基準値の80.5%から目標値の90%となってもあまり効果はないと思う。
委員A	「1-1-2 出会いの場の創出」について 指標が開催回数になっているが、何回開催したかは効果を測っていることにならない。回数以外のものを取り上げられないか。
委員B	「1-2-2 多様な保育サービス・子育て支援の充実」について 「保育士奨学生数」の目標値4人という数字は判断が難しい。将来的に保育士をどの程度採用したいかを見えるようにする必要があるのではないか。
委員C	保育園は民営化が進んでおり、公共的な施設だけでなく民間の施設も含めて考える必要がある。

	「1-2-3 地域全体で子育てを支援する環境の整備」について
部会長	子どもたちの数が減っており、利用者数は単位あたりの数値にすべきだ。他のほとんどの指標についても同様だと考える。
	「1-3-1 専門的な相談支援の充実」について
部会長	「健やか親子 21 アンケート」が根拠となっているが、そもそも支援が必要な人は、アンケートに回答しない人たちなのではないか。
	「1-3-2 困難を有する子ども・若者やその家族の支援」について
部会長	アンケートの結果で相談室の認知度が上がったところで成果とは言えない。このアンケート結果を基準値とするのであれば、目標値は 100%に近い数値にする必要がある。
	「1-4-1 確かな学力の定着」について
部会長	根拠となっているアンケートの信頼性を示す必要がある。目標値を 100%にしているのはよいと思う。
	「1-4-2 豊かな心と健やかな体の育成」について
部会長	「不登校児童生徒数」減少とあるが、子どもの数が減れば当然減少する。もう少し具体的にすべきではないか。 アンケート結果を基にしている指標は、母集団がどのくらいなのか確認しておく必要がある。
	「1-4-3 特別支援教育の充実」について
部会長	特別支援学級の担任になったからといって、適切な指導ができるようになるわけではないのではないかと。この指標については再検討をお願いしたい。
	「1-4-4 郷土愛を育む教育の充実」について
部会長	他の指標と同様で、アンケートの信頼性を明らかにする必要がある。
	「1-4-6 教育環境の整備」について
部会長	課題に災害への対応と記載されているが、災害対応の指標があるとよい。
	「1-4-7 信頼される教育の推進」について
部会長	教員の資質向上が大きな課題だと思うが、指標は「コミュニティ・スクールの設置数」となっている。ミスマッチではないか。
事務局	地域の声を学校運営に活かしたいという思いがある。地域との協議会を設けて地域の声を反映し、地域の信頼を得ることを目指している。
	「1-5-2 高等教育機関との連携の推進」について
委員 A	基準値の 1 件がどういう意味を持つかわからない。何を持って連携となるのかを明確にする必要があるのではないかと。
	「1-6-2 地域における子どもの成長支援」について
委員 B	色々な考えをもった家庭がある中で、「放課後子ども教室」はどのようなニーズに応えるものなのか。そこに参加することが一概に良いこととしてよいのか。
	「1-7-1 スポーツ・レクリエーションの推進」について
部会長	スポーツの指導者の数を成果指標にしているが、それが増えてもサークルや団体をつくるわけではないのではないかと。

	「1-7-2 生涯学習活動の推進」について
部会長	「生涯学習講座の年間延べ受講者数」とあるが、通う人の多くは高齢者で、今後高齢者が増えれば自然と数字は上がると思う。自然増と市の努力で増加させることは分けて考えないといけない。
	第2部「2-1-1 商工業の振興」について
委員 B	補助金の利用件数を2つ指標にしているが、色々種類がある中小企業補助金の中でなぜこの2つなのか。あえてこの2つに絞らず全体として目標を立てたほうがよいと思う。
産業経済部長	検討する。
	「2-1-2 農林水産業の振興」について
部会長	農産物の販売額の目標値はこれでよいのか。
委員 C	農協としては販売額を上げていきたいと考えている。
部会長	目標値は検討してもらいたい。
	「2-1-2 農林水産業の振興」について
委員 C	農業の担い手は高齢者がほとんどで、若い担い手がないことが一番の問題だ。農地の集約化は進んでいるが、地域で組織として事業を継続することに難しさを感じる。
委員 D	漁業は、楽しく素晴らしい職業だとアピールしているが、若者の求める条件と合わないため人が集まらない。求人の募集も工夫しながら出しているが、人手不足の状況である。
部会長	指標には年齢等を考慮した方がよい。
	「2-2-1 企業誘致の推進」について
委員 B	事業者数や事業所数を増やす指標を入れるべき。
	「2-2-2 創業支援、事業承継の推進」について
部会長	この目標値の目標年はいつか。
事務局	令和9年度に達成を目指す目標値である。
部会長	「創業支援事業補助金利用件数」が5年後17件だと少ないと思う。
事務局	この目標件数は補助金を活用した件数であり、補助金を活用せずに起業した件数は含まれていない。
部会長	それだと創業支援になっていないのではないかと。精査してほしい。創業件数は年ごとに倍になるくらいの成長が必要だと考える。
	「2-3-1 多様な働き方ができる雇用環境の整備促進」について
部会長	「サテライトオフィス等開設支援事業件数」は市外から来る人に対する施策か。市内で働く人の多様な働き方についても考慮すべきではないか。
	「2-3-2 雇用対策の充実と職場環境の向上」について
部会長	「ゆとりライフ互助会」の加入者数は成果指標として適切か。再検討してほしい。
	「2-3-3 働き方改革の推進」について
部会長	「障がい者雇用奨励件数」については、法定雇用率の対象事業者との関係を整理する必

	<p>要がある。</p> <p>また、ワークライフバランスに関する指標を検討できないか。</p> <p>「2-3-4 女性活躍の推進」について</p>
委員 D	性別にかかわらず管理職になる能力のある人がそうなるべきだと思うが、女性の管理職比率をあえて成果指標としてもよいのか。
部会長	女性が管理職になることがすなわち女性活躍であるとは限らないのではないか。
部会長	第3部「3-1-1 特性を活かしたまちづくりの推進」について
都市整備部長	「市街化区域内農地の宅地等転換後の面積」は農地を減らすということか。
部会長	市街化区域内の農地を宅地に転換し、宅地を増やしていこうとするものである。
委員 C	宅地を増やしたいという趣旨の指標であるのに、基準値から目標値が減少しているので、分かりづらい。表現を工夫してほしい。
都市整備部長	「3-1-2 道路網の整備」について
部会長	状況に合わせて市道を県道に変えたりできないか。
都市整備部長	市が作った道路を県にというのは難しい。
部会長	「3-1-3 港湾整備の促進」について
都市整備部長	「海上出入貨物量」の目標値を「保留」としていたが、4,787,000 トンに設定した。
部会長	港湾整備を促進することと、海上出入り貨物量の増加には相関関係があるのか。
都市整備部長	国、県で港湾の利便性向上を図っている。それにより利用しやすい港湾になり、取扱貨物量も増えると考えている。
部会長	「旅客船接岸数」の基準値は、コロナの影響で接岸がなかったということか。
都市整備部長	令和3年度はコロナの影響で接岸がなかった。令和4年度は2回の予定である。
部会長	「3-1-4 上下水道の充実」について
上下水道部長	「管路経年化率」は古い管路の割合を表すと思うが、目標値が上昇しているのはどうということか。
部会長	本来であれば減らすことが望ましい指標だが、莫大な経費が掛かることもあり、経年化率をなるべく抑えたいという考えである。
上下水道部長	むしろ目標値を下げて予算要求してはどうか。
部会長	水道事業は市民からの水道料金で賄っている事業であり、実現するには水道料金をかなり上げないと成立しない。水道料金を抑えながら整備していく方針である。
委員 E	「3-1-5 公共交通網の整備」について
部会長	「コミュニティバス等乗車人数」の目標値は適切か。関係人口の増加を目指す観点からも、公共交通機関を利用する人が増えないと広がらない。再検討してほしい。
部会長	「3-2-1 住環境の整備」について
委員 E	指標「公営住宅長寿命化改善率」について、基準値 10%から目標値 50%としているが、公営住宅の入居率も踏まえて、目標値を設定すべきではないか。

	「3-2-2 空き家対策の推進」について
部会長	「老朽危険空家解体補助件数」の累計はいつからの累計か。
事務局	計画期間5年間の累計である。
部会長	1,653軒空き家がある中、50件が目標だと少なく感じるが。
都市整備部長	この目標は、放置すると倒壊などの危険性がある老朽危険空家に対して補助金を支出して解体等を促すものであることから、通常の管理されている空き家については取り壊しではなく、利活用してもらいたいと考えている。
部会長	危険な空き家は何軒あるのか。
都市整備部長	現在は40軒程度である。
部会長	「空き家情報バンクの流通数」の目標値は60件となっているが、もっと増やしていかないといけない。
	「3-2-3 生活空間の整備・充実」について
部会長	インフラ系の成果指標は、いずれも予算があればできる内容だ。 お金で決まるような指標を設定するのは適切なのか。収入源を確保することに踏み込まないと変わらないのではないか。
事務局	中長期財政計画を並行して策定しており、財政状況を踏まえた上での目標設定になっている。
部会長	お金を使うことだけでなく、集めることにも指標として目を向ける必要がある。
	「3-3-1 防災・減災、国土強靱化の推進」について
部会長	ここも絶対数の目標値となっているので、割合の中で本当に増えたか分かる単位にしてほしい。
	「3-3-2 消防・救急体制の強化」について
部会長	「消防団員数」の目標値の根拠を聞きたい。
事務局	条例で定めている定数としている。担い手がおらず充足できてない。
部会長	定員を確保するという表現で記載すればよいのではないか。
	「3-3-3 雪対策の推進」について
部会長	「消雪施設遠隔監視システム導入施設数」の目標値147施設というのは全施設に導入するということか。
都市整備部長	そのとおりである。
	第4部「4-1-1 多様な価値観や違いを認め合う社会の形成」について
部会長	「国際理解に関する講座の参加者数」の目標値200名は、射水市の人口と比較するとわずかな人数であり、達成してもあまり意味のない成果指標ではないか。再検討してほしい。
	「4-1-2 ジェンダー平等（男女共同参画）の推進」について
部会長	「男性の育児休業取得率」が上昇したからといって、ジェンダー平等が実現したとは言えないのではないか。再検討してほしい。
	「4-1-3 人権尊重・権利擁護の推進」について

部会長	<p>「市民後見人バンク登録者数」を指標に挙げているが、後見人が少ないというより、裁判所に認めてもらうまでの手続きが煩雑であるという問題の方が大きいと聞いたことがある。それを踏まえて再検討してほしい。</p> <p>「4-1-4 社会保障の充実」について</p>
部会長	<p>現状値の 55%から目標値の 58%に上がったことで社会保障の充実といえるのか。これを掲げるなら 100%近いものになっていないといけないのではないか。</p> <p>「4-1-5 ペットとの共生」について</p>
部会長	<p>「犬猫に関する苦情件数」を指標にしているが、ペットは犬猫だけではない。検討が必要だ。</p> <p>第5部「5-1-1 地域共生社会の実現に向けた体制づくり」について</p>
部会長	<p>「地域支え合いネットワーク事業実施地域数」の目標値が 27 地域、「地域共生社会構築事業実施地域数」の目標値が 2 地域となっているが、27 地域と 2 地域で全市をカバーするということか。</p>
事務局	<p>「地域支え合いネットワーク事業実施地域数」については 27 地域で全市をカバーする。「地域共生社会構築事業実施地域数」は増やすことが難しい中で 1 地域増加させる。</p> <p>「5-1-2 障がい者福祉の推進」について</p>
部会長	<p>「緊急時の受入可能事業所数」とあるが緊急時とはどういった状況か。分かるようにしてほしい。</p> <p>「5-2-1 健康づくりの推進」について</p>
部会長	<p>あまりにも遠大かつ壮大な数値なので、もう少し途中のプロセスを指標にしたほうがよいのではないか。</p> <p>「5-2-2 地域医療体制の充実」について</p>
部会長	<p>目標値が維持となっているのは、現在は課題が無いと言っていることと同じ。本当にそれでいいのか。</p> <p>「5-2-3 市民病院における医療の質の向上と健全運営」について</p>
部会長	<p>「一般病床稼働率」の目標値は 100%を目指す方が適切だと思う。</p> <p>第6部「6-1-1 観光の振興」について</p>
部会長	<p>指標の目標値の根拠は何か。</p>
観光・定住課長	<p>「観光客入込数」については、一番多い時で海王丸パークが 120 万人、きときと市場が 57 万 2 千人、川の駅が 4 万 7 千人で合わせて 180 万人程度となっており、コロナで落ち込んでいるため 5 年後に 200 万人を目指したいという考え方である。</p> <p>「市内宿泊者数」については、現在コロナで落ち込み 4 万 2 千人だが、年間 80%程度で稼働しているホテルもあるので、そこを目指したい。</p>
部会長	<p>例えば「市内宿泊者数」については、客室数を基に宿泊できる最大人数を計算して、そのパーセントとしたほうがいいのでは。</p>
観光・定住課長	<p>客室数をシングル扱いで換算し、年間 75%稼働となることを目指している。</p>
部会長	<p>もう少し高い努力目標をつくってほしいと思う。</p>
観光・定住課長	<p>検討する。</p>

	「6-2-1 移住・二地域居住等の促進」について
部会長	指標が「移住相談窓口や制度を活用した市外からの移住者数」となっているが、第一段階として、まず相談窓口を活用してもらうことが必要だ。まずはそちらが指標になるのではないか。
	「6-2-2 シティプロモーションの推進」について
委員 F	「ツイッター、YouTube、Instagramのフォロワー数」の指標があるが、使用される SNS は時代によって移り変わる可能性があり、市民が5年後にこのツールを利用しているかどうかは分からない。今の若者は LINE も見ない。特定のツールにこだわるべきではないと考える。
	第7部「7-1-2 姉妹都市・友好都市との交流」について
事務局	「国際交流事業参加者数」については、国際交流に限らないため「国際」の文言を削除し「交流事業参加者数」に名称変更する。
部会長	国際交流のために外へ行く人だけではなく、来る人も含んだ観点が必要ではないか。
	「7-1-3 新たな交流や多様なかかわり方の促進」について
部会長	「コンベンション開催事業等での県外からの宿泊者数」の指標は、「6-1-1 観光の振興」の指標と重複するのではないか。 また、「スポーツ合宿や全国大会の誘致数」とあるが、色々な全国大会がある。何を指して全国とするか整理が必要だ。
	「7-2-1 協働・共創・市民参画の体制・仕組みづくりの推進」について
部会長	担い手がいないことが課題だと思うが、指標にある「地域型市民協働事業数」が増えても担い手が増えるわけではない。年齢的に若者に参加してほしいと考えているはずだが、高齢者が参加する事業が増えても施策につながらない。
	「7-2-2 学生・生徒が参画するまちづくりの推進」について
部会長	関心があることと実際に参画することは別次元の話になる。学生がまちづくりに関心があっても参加する機会、場がないと参画できないことを踏まえて、指標を設定すべきではないか。
	「7-3-1 環境保全・自然環境との共生」について
部会長	「環境基準の達成率(騒音・大気・水質)」を達成することが自然との共生につながるのか。もう一度考えてほしい。
	「7-3-2 美しいまちづくり、人づくりの推進」について
部会長	「アダプト・プログラム清掃活動回数」とは何か。
事務局	市民が自宅前の道路や公園など、自分が関わりたい箇所について清掃活動を自ら行うなど、実施する箇所と実施する人を親子のようにみて、つながりを強め、まちの美化を図る取組である。
部会長	それをどのように計測するのが課題だと思う。
	「7-3-3 資源循環型社会の形成」について
部会長	指標が「一人当たりのごみ排出量」、「リサイクル率」となっているが、結果としては分かるが具体的には何をすればいいの、という話になるのではないか。
事務局	「一般廃棄物処理基本計画」という個別計画があり、そこで定めている目標値となっている。その計画の中で目標達成のための取組等を記載している。

部会長 下位計画があることを示す必要がある。
「7-4-1 芸術文化活動の推進」について

部会長 芸術文化施設に行くことと芸術文化活動を行うことは必ずしもイコールではないことから、この指標が適切なのか、再検討してほしい。
「7-4-2 文化財の保存・活用」について

部会長 国指定ではない文化財などは、経年劣化でいずれ壊すこともあると思う。そういった文化財の保存・保護は考えないのか。保存・保護の視点も必要だ。
「7-5-1 信頼される市政の推進」について

部会長 「コンビニ交付サービス利用率」を上げることは信頼される市政につながるのか。
事務局 利便性を高めることによって、市民サービスが行き届いてると感じてもらいたいという趣旨である。

部会長 コンビニ交付にはマイナンバーカードが必要になる。そうするとマイナンバーカード取得の推進を先に進める必要があるのではないか。
「7-5-2 公共施設マネジメントの推進」について

部会長 公共施設にPFIを導入したからといって、すべてが上手くいっているわけではない。
事務局 ここで指標としている「民間提案制度」は、県内でも初めての取組である。市ではなく、民間の発想によって公共施設の利活用を促進するため、制度に基づく事業数を目標として定めている。

部会長 もうひとひねりほしい。そもそも民間の発想を受け入れる目的は何なのか。その目的が達成されないと、うまくいったかどうか分からない。
「7-5-3 健全な行財政運営の推進」について

部会長 行財政改革集中改革プランの進捗を成果指標としているが、プランの内容が適切でない場合はどうするのか。
事務局 プランは毎年見直しを行い、常に最新の状況を反映している。
「7-5-5 自治体DXの推進」について

部会長 指標「RPA対象業務」の目標値26業務の根拠は何か。
事務局 毎年2業務ずつ増やしたいという考えである。
部会長 「IoT利活用業務数」も同じ考えか。
事務局 こちらは毎年1業務ずつ増やす目標である。
部会長 資料2 将来像及び関係人口の名称の検討状況について意見をいただきたい。
(意見なし)

4 その他
事務局

今回は全体会を8月29日(月)午後7時からクロスベイ新湊で開催を予定している。

5 閉会

以上

射水市総合計画審議会 第4回未来創造部会 会議録(要旨)

日時 令和4年7月28日(木) 午後7時～8時20分

場所 新湊消防署3階講堂

出席者

(委員)

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進、荻浦明希子(リモート参加)、樋上正之、二川由利子、松本吉晴、松本三千人、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人

オブザーバー：大西宏治、鈴木真由美(リモート参加)

欠席委員

なし

(当局)

現地参加

桜川議会事務局長、小塚企画管理部長、北財務管理部長、長谷川市民生活部長、小見福祉保健部長、宮本産業経済部長、久々江教育委員会事務局長、渡邊会計管理者、吉岡監査委員事務局長、荒谷議会事務局次長、杉本企画管理部次長、中川財務管理部次長、松下市民生活部次長、轟福祉保健部次長、福井産業経済部次長、塩谷教育委員会事務局次長、六渡教育委員会事務局次長、森田未来創造課長、菅原政策推進課長

リモート参加

四日人事課長、坂井財政課長、佐藤資産経営課長、高橋課税課長、鎧塚収納対策課長、齊木市民活躍・文化課長、野崎検査監、板坂市民課長、大居子育て支援課長、久々江観光・定住課長、星野学校教育課長、片口監査委員事務局次長

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議事

(1) 基本構想及び基本計画素案について

(2) 将来像及び関係人口の名称の検討状況について

政策推進課
長
部会長
委員 A

資料1、2に基づき説明

資料1 基本構想・基本計画素案について意見をいただきたい。

例えば23ページの「児童館・児童室の利用者数」や「子育て支援センターの利用者数」などの基準値はコロナの影響があったものだが、コロナ前の数値がどうだったか知りたい。87ページにある「市政出前講座の開催数」の基準値は平成29年から令和3年の平均となっている。このように平均をとって目標値を定めたのか、もしくはコロナ前の数値を基準に設定したのか確認したい。

「第4章 生きる力を育む学校教育を推進する」について、学力にはSNSやゲームの影響が大きいとの報道があった。富山県は、北陸3県と比較すると、ゲーム時間が長いという話もあった。こういったことを数値目標で設定できないか。家庭の問題だと思うが、市の計画書などに記載があると興味のある親は子どもに対して

	指導するきっかけになると思う。
	注釈の順番について、あいうえお順などで並んでおらず不便だと感じた。ページ数を入れるなどしたほうがいいと思う。また、文案にインクルージョンという言葉が入っていないと思う。なぜなのか。
事務局	注釈については出現順となっている。最終的には一覧ではなくページ下部に記載する予定。インクルージョンも追加したい。
福祉保健部長	23 ページ「児童館・児童室の利用者数」の基準値について、コロナ前の令和元年度の利用者数は 55,963 人で、令和 2 年度は一時閉館したこともあり約 35,000 人となっている。子どもの人口は減少を見込んでいるが、それでも児童館を利用してほしいということで 7 万人を目標値としている。
教育委員会事務局長	SNS やゲームの時間の影響については、はっきりとした検証がなされていない。どの程度 SNS やゲームに時間を費やしているかのデータはある。目標として設定するかは検討する。間接的に関係する項目として 27 ページに「家庭学習の一日当たりの時間が「10 分間×学年」以上の児童生徒の割合」を指標に挙げている。
部会長	「家庭学習の一日当たりの時間が「10 分間×学年」以上の児童生徒の割合」の指標について、単に時間ではなく個別に対応した学習方法等を行ったほうがいいという見解もある。その観点での目標などはあるか。
教育委員会事務局長	色々な考えはあるが一律には表現しづらい。少なくともこれだけの時間はとりましようという目標としている。
部会長	求められているものは、一人ひとりに適した学びを提供することだ。
委員 B	各ページに SDGs のアイコンがある。可能な範囲で大きくしてほしい。アイコンの文字は重要な意味があると思うので、確認できる大きさのほうがいいと思う。 成果指標の数はもっとあってもいいのではないか。主要施策が多いためトータルでみると多くみえるが、成果指標は具体的なものを示しているのだから、色々なことを挙げていいと思う。行財政改革集中改革プランに掲げる数値目標を参考にするのも一つの方法だと思う。 27 ページ指標の「休日の部活動を地域に移行した割合」の目標値が 100% となっている。スポーツ分野の部活動について提言されているが、文化活動もある。そこをどう捉え 100% にしているのか。
事務局	SDGs アイコンはなるべく分かりやすく表示する。 また、成果指標は、多くを設定せず、それぞれの主要施策を代表するものに絞って設定したいと考えている。詳細な成果指標については、基本計画の下位の実施計画で設定することを検討している。行財政改革集中改革プランについては、参考にしながら作成を進めたい。
教育委員会事務局長	部活動について、国では、文化系についても休日の部活動を地域に移行したいとしている。射水市においては今年度から柔道、剣道、バスケットボールをモデル競技として休日の活動を地域に移行しており、文化部についても協議を始めている。
委員 B	なぜ休日だけなのか。
教育委員会事務局長	国では、まず休日について地域への移行を進めている。
委員 C	文科系の部活動の関連で、文化芸術活動の現状として、市の芸術文化協会では、6 つの専門分野において今年度から生涯学習と連携しながら放課後学習などで出前講座を行っているところである。
委員 D	「第 1 章 新しい命の誕生を支援する」の現状と課題には、総合的な結婚支援の取組を強化する必要があると記載がある中で、指標は「出会いイベント開催数」と

なっている。出会いイベントが増えたからといって、新しい命の誕生支援や総合的な結婚支援の取組を強化するには心もとないと思う。出会いイベントではなく、日常の中で出会いを求めているハードルを越えられない人を視野に入れた指標を設定してほしい。

75 ページの「6-2-2 シティプロモーションの推進」について、指標は「ホームページのアクセス数」と「ツイッター、YouTube、Instagram のフォロワー数」となっているが、アクセス数やフォロワー数が増えるのはシティプロモーション以外の要素も含まれると思う。シティプロモーションとしてはメディア等に直接的にプロモーションを行い、「メディアにどれだけ取り上げられたのか」のほうが相応しいと思う。

73 ページ「6-1-1 観光の振興」の指標に「観光客入込数」が挙げられており、説明には「ベイエリア（海王丸パーク、きつときと市場、川の駅）の入込数」と記載されているが、ベイエリア以外にも広く目を向けるべきではないか。

また、今は観光のあり方が多様化している。従来型の目標設定でいいのか疑問に思う。多様な時間の過ごし方、旅のあり方を念頭に置いて施策や指標を検討すべきではないかと考える。

部会長

もう少し色々な観点から指標を立ててもいいのではないかと考える。

委員 E

61 ページ「4-1-2 ジェンダー平等（男女共同参画）の推進」の指標について、「男性の育児休業取得率」だけではなく、市で意識調査を実施しているはずなので、そこからもってきてもいいと思う。また、育児休業については、10 月から産後パパ育休が制度化されるので、それも指標に入れてほしい。

33 ページ「親を学び伝える学習プログラムの参加率」について、子育て井戸端会議は射水市しかやっていない取り組みだと思うが、それはここに入っているのか。射水市だけの取り組みなので入れたほうがいいと思う。

委員 F

61 ページの「4-1-2 ジェンダー平等（男女共同参画）の推進」の指標に「男性の育児休業取得率」が挙げられているが、45 ページ「2-3-4 女性活躍の推進」に（3）男性の育児参加の促進とあるので、こちらにもってきて、4-1-2 の指標は市で行っている意識調査からもってきてほしいと思う。

また、44 ページ、45 ページの表現が「性別にかかわらず」となっているが、女性の活躍にフォーカスした表現でいいのではないか。

部会長

「2-3-4 女性活躍の推進」に出てくる（3）男性の育児参加の促進と、「4-1-2 ジェンダー平等（男女共同参画）の推進」の指標は入れ替えたほうがいいと思う。

委員 E

「7-5-5 自治体DXの推進」では、結ネットを数値目標化したほうがいいと思う。

委員 B

「7-4-1 芸術文化活動の推進」に（4）次代の芸術文化活動を担う子ども・若者の育成とある。何か成果指標がほしい。

「7-2-1 協働・共創・市民参画の体制・仕組みづくりの推進」について、まさしく今仕組みづくりが求められている。成果指標として設定できなくても具体的に目指す方向性を示すことができないか。指標 1 つではさみしい。多様な地域活動、交流を描いていければと思う。

市民生活部長

成果指標については、より適切なものとなるよう検討したい。

委員 G

81 ページ「7-2-2 学生・生徒が参画するまちづくりの推進」では、まちづくりに関心がある学生の割合を指標にしているが、もう一歩進んで、どうしたらまちづくりに参画できるか、参画機会を増やすような指標を入れてほしい。

委員 H

掲げている施策を直接計ることのできない指標がある。成果指標にある内容が主要施策のどの部分と関連しているか示す必要がある。直接計れるものがない場合、どうすれば内容を計れるのか考え、説明に加える必要がある。

部会長 資料2 射水市の将来像案及び関係人口の名称案について意見をいただきたい。

委員B 将来像の案1は長い。もう少し短くしてほしい。

委員I この将来像は10年間使われる。10年後にこれをみても、なるほどと意味が分かるものだとい。その意味で「いみずの本気」という言葉は10年後には意味が分からなくなる気がする。流行ではなく普遍的なもののほうがいい。

委員J 「ムズムズ」という言葉にはインパクトがある。10年後もムズムズは変わらないのではないか。将来像か関係人口の名称どちらかに残したほうがいい。
関係人口の候補は富山弁を使っており、これも10年後も変わらないので、温かいものを感じられる富山弁を入れ込んでもいい。

委員A ムズムズは10年後でも通じる。どちらかに入れるのは賛成だが、いきなりムズムズと出てくると何のことが分からなくなる気もする。ただ、射水市らしさとしてムズムズは残したい。

委員K 79ページ「7-1-3 新たな交流や多様なかかわり方の促進」について、昨年度各県から来ていただき試合を実施しているが、市内での宿泊は伴っていない。宿泊を伴う経済効果以外にも色々指標があると思う。スポーツツーリズムの目標を高く設定して交流人口を増やしていければいい。

部会長 本日いただいた意見は、次回全体会での協議資料に反映する。資料への反映については事務局と部会長、副部会長に一任してほしい。

(異議なし)

4 その他
事務局

今回は全体会を8月29日(月)午後7時からクロスベイ新湊で開催を予定している。

5 閉会

以上